

危険な産業災害に対する医療従事者の備え



はじめに

目的

活動内容

結果

ENG 日本語



東南アジアにおける危険産業災害時の医療緊急事態への備えと対策の強化



欧州連合(EU)による資金援助

SDGs



問題の状態

・過去の大規模産業災害、例えばチェルノブイリ原子力発電所事故(1986年、ウクライナ)、ボパール化学工場事故(1984年、インド)、福島原発事故(2011年、日本)、ベイルート爆発事故(2020年、レバノン)などは、被害者の生存率を高め、苦しみを軽減するために、いかに迅速かつ協調的な対応が求められるかを示しています。



行動の必要性

・したがって、大規模な産業災害が発生した場合に、医療緊急対応の計画とトレーニングは、個人およびチームが迅速かつ効果的に行動し、命を救い、さらなる被害を最小限に抑え、身体的・精神的健康の両面で適切なケアを提供するために不可欠です。

はじめに

目的

活動内容

結果

ENG

日本語



以下の主要な理由により、大規模な産業災害時における医療緊急対応の計画とトレーニングが重要です:



迅速なケア:

トレーニングされた医療チームが被害者に迅速なケアを提供し、効果的なトリアージを通じて生存率を向上させ、負傷の重症度を軽減します。



円滑な連携:

予め確立された対応計画により、地域の緊急サービス、病院、救急隊との連携をスムーズに進めることができます。



被害の最小化:

災害特有のリスクを理解することで、医療チームは自身の安全を確保しながら適切な治療を提供できます。



医療システム管理:

病院や移動型医療ユニットとの事前調整により、医療機関の過負荷を防ぐことができます。



東南アジアにおける緊急事態関係者が産業災害時の対応能力と協力を強化します。

主要な目的:

- 東南アジアの国・地域の関係者（法執行機関、緊急対応要員、医療専門家など）に対し、危険な産業災害への備え（検知、対応、ベストプラクティス）の重要性を啓発し、協力を促します。
- 東南アジアの医療従事者が、産業災害における医療対応の能力を向上させるためのトレーニングを実施します。

対象国:

ブルネイ・ダルサラーム、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム



このプロジェクトは、欧州連合(EU)化学・生物・放射性物質・核リスク軽減に関するセンター(EU CBRN CoE)より資金が提供され、国連地域間犯罪司法研究所が支援しています。プロジェクトは2027年まで実施する予定です。



現場管理、医療ケアと実践的な学習に関する分野横断的な協力

- このプロジェクトは2024年10月にマレーシアのクアラルンプールで開催されたキックオフ会議をもって開始されました。
- マレーシアで開かれたキックオフ会議では各国の関係者が集まり、現場管理や医療ケアにおける分野横断的な連携の重要性にハイライトを当てました。クアラルンプールのジャラントウン・ラザク消防救助署でのデモンストレーションを通じて、実践的な経験を積む機会を提供しました。



EUと東南アジアの協力:コンサルテーション、緊急事態への備え、トレーニング、疫学に関する能力構築



初期対策:

- EUと地域の専門家チームは東南アジアの各国を訪問し、国家医療緊急事態への備えと対応能力及び優先事項について協議します。
- 東南アジア諸国の訪問結果に基づいて、トレーナー養成カリキュラムを策定します。
- CBRN(化学・生物・放射性物質・核)医療対応計画とグッドプラクティスの普及を目的とした地域演習を実施します。



主な対策:

- 下記内容を含む国・地域ごとにカスタマイズされたトレーニングを展開します:



現場管理



入院前の
医療ケア



病院での
医療ケア



エントリーポイント
(空港など)の緊急対応



- 疫学に関する技能を強化するため、国ごとに1～2名の疫学者を選出し、疫学トレーニングプログラムに参加させます。

総括イベント:

- プロジェクト終了時に国内・地域・国際関係者が参集し、成果の振り返りと持続的なフォローアップ活動について議論します。



はじめに

目的

活動内容

結果

ENG

日本語



東南アジアのトレーナーによる医療緊急対応スキルの習得とベストプラクティスの共有

このようにして、東南アジアのトレーナーたちは産業災害における医療緊急対応の実践的スキルを習得し、東南アジア諸国間のベストプラクティスの経験の共有をはかることができます。

